

(3) 学会発表

■社会経済史学会第84回全国大会

「両大戦間期航空機産業の世界的転回—軍需・民需相互連関の視点から—」

【日時】2015年5月30日

【場所】早稲田大学

【報告】

問題提起 横井勝彦「『軍縮下の軍拡』と武器移転の同時展開」

第1報告 永岑三千輝「ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業と秘密再軍備の実態」

第2報告 西牟田祐二「ドイツ航空機産業発展におけるアメリカ資本の役割—ユニカーズ主要サプライヤーとしてのアダム・オペル社—」

第3報告 高田馨里「1930年代、パンアメリカン航空会社による国際民間航空商業の展開とアメリカ航空機産業」

第4報告 福士 純「軍縮期のカナダにおける航空機産業—カナディアン・ヴィッカーズ社の事例を中心に—」

討論社 小野塚知二「戦間期航空機産業の技術的背景と地政学的背景—海軍航空の自立化と戦略爆撃への道—」

■政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル報告

「イギリス帝国における宗教、政治経済、ブリティッシュ・ワールド」

【日時】2015年10月17日

【場所】福島大学

【報告】

第1報告 竹内真人「福音主義とイギリス自由主義的帝国主義」

第2報告 松永友有「イギリス帝国特惠関税構想の変遷」

第3報告 福士 純「ブリティッシュワールドと経済—カナダの視点から—」

【コメント】

前川一郎「ヨーロッパ中心主義批判の観点から」

榎本珠良「『南』の開発・安全保障をめぐる『介入の論理』の破綻ないし実践との乖離から」

■ZIF Workshop “Small Arms—Big Business. Trading Small Arms: Political, Cultural and Ethical Dimensions in Historical and Global Perspective”

【日時】2017年6月8-10日

【場所】ドイツ・ビールフェルト大学

【報告】

Katsuhiko Yokoi, Economic History of the Arms Trade in Japan

Nobuo Tajima, Japan, Germany and the China Arms Embargo, 1919-1929

The conference has demonstrated that the global small arms trade is a multifaceted issue that needs to be tackled from different methodological angles. Perspectives towards an interdisciplinary approach have been outlined, and the necessity of reliable data sets have been stressed, which might be gained in proceeding cooperation, especially between historians and colleagues from the social sciences. Furthermore, questions of moralizing markets have been identified as a promising field of future research to better understand the asymmetric entanglement of local, national, and global settings that characterize the small arms business.

Lili Zhu



■政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル報告

「武器への道徳的な問いの諸相 一負の問い、「正」の問い、「正ではない」問い一」

【日時】2017年10月14日

【場所】大阪商業大学 6号館3階631教室

【問題提起】小野塚知二（東京大学）

【報告】

第1報告 武井弘一「日本近世の百姓の鉄砲所持・利用の規範」

第2報告 小野塚知二「19世紀後半～20世紀初頭軍拡期の国家・民族の「独立・自衛」と武装・武器移転正当化論」

第3報告 佐原徹哉「超域的テロ・ネットワークにおける武装正当化論」

【コメント】

竹内真人「19世紀末～20世紀初頭の武器=労働力交易規制論から」

榎本珠良「近現代の武器移転規制論とウガンダの事例から」

■政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル報告

「『航空熱』とは何だったのか？ 一戦間期における民間航空事業を中心に一」

【日時】2018年10月20日

【場所】一橋大学

第1報告 小野塚知二「航空熱と世界記録更新—技術革新の時期・主体・方向性」

第2報告 永岑三千輝「ユンカースの大西洋横断飛行への挑戦

—航空機開発と航空熱—」

第3報告 田嶋信雄「ルフトハンザの東アジア進出

—民間の航空熱から軍事航空へ—」

(4)シンポジウム、ワークショップ、セミナー、フォーラム

◇ シンポジウム、ワークショップ、セミナー、フォーラム等の実施状況は、すべて国際武器移転史研究所のホームページで公開している。

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~transfer/>

◇ とりわけシンポジウムでは、のちに本研究所が刊行する機関誌『国際武器移転史』や研究叢書に結びつく研究成果が発表されてきた。それゆえ、シンポジウムは本研究所の研究活動の核であり、かつ外部者から反応が得られる最大の機会でもある。したがって、シンポジウムについては、毎回、カテゴリー毎の登録者数や参加者数、参加者アンケートの結果を検証し、量的および質的な評価を行い、次回に向けての改善点を検討してきている。以下にシンポジウム（2015～2018年度）PDCA資料も添付した（資料3参照）。

①シンポジウム

■明治大学国際武器移転史研究所主催 設立記念シンポジウム



- 本シンポジウムの趣旨は、国際武器移転史研究所の活動があくまでも学術研究にあり、政治活動ではないことを周知することにあった。
- 3者の報告では、研究所メンバーの研究成果の一端を紹介し、研究の対象領域を明確にした。
- 本シンポジウム以降、毎回の報告は『国際武器移転史』に編集の上掲載していく。英語での報告は、たとえ同時通訳が付いた場合でも、そのまま英語論文として掲載する方針とした。

「軍備管理と軍事同盟のくいま」を問う」

【日時】 2015年11月17日（火曜日） 18:00～21:00

【場所】 明大駿河台キャンパス グローバルフロント1階グローバルホール

【登壇者・進行】

司会 横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所長）

第1報告 国際武器移転史研究所の目指すもの 横井勝彦

第2報告 戦争と平和と経済-2015年の「日本」を考える-

小野塚知二（東京大学大学院経済学研究科教授）

第3報告 イスラム過激派のネットワークと現行世界秩序の変化

佐原徹哉（明治大学政治経済学部教授）

第4報告 21世紀の武器貿易は規制できるか-武器貿易条約（ATT）の実施をめ

ぐる課題から- 榎本珠良（明治大学研究知財戦略機構共同研究員）

■明治大学国際武器移転史研究所 第2回シンポジウム



- 第1テーマ「武器移転・技術移転の連鎖の構造解明」をベースとしたシンポジウムであり、「航空機の軍民転用性」をキーコンセプトとして議論が展開された。
- 外部講師に依頼して無人航空機（ドローン）に関しても軍民転用問題に関して最新事情を紹介することができた。
- 当日の報告内容は、社会経済史学会でのパネル報告、国際セミナー、『国際武器移転史』などを経て、研究叢書1及び5に集約されることとなる。

「航空機の軍民転用と国際移転」

【日時】 2016年1月19日（火曜日） 18:00～20:30

【場所】 明大駿河台キャンパスグローバルフロント1階 グローバルホール

【登壇者・進行】司会 横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移転史研所長）

第1報告 ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業の世界的転回-ナチ秘密再軍備の前提を考える - 永岑三千輝（横浜市立大学名誉教授）

第2報告 軍事航空と民間航空 -戦間期における軍縮破綻と航空問題-

高田馨里 (大妻女子大学比較文化学部准教授)

第3報告 現代日本の航空機産業と武器移転-無人航空機 (ドローン) の軍民転

用の実際- 佐藤丙午 (拓殖大学国際学部・海外事情研究所教授)

コメント 小野塚知二 (東京大学大学院経済学研究科教授)

■明治大学国際武器移転史研究所 第3回シンポジウム



- 第2テーマ「軍縮・軍備管理破綻の構造解明」によるシンポジウムであり、対象時期をかなり限定した。
- シンポジウムのタイトルのイメージと3報告の専門性とのギャップが反省点として残った。
- 研究所メンバーの専門との関係で報告内容が政治経済史・国際関係史に偏っており、その点も今後の検討課題として残った。
- 以上の反省点も含め、報告の成果は『国際武器移転史』と国際ワークショップを経て、研究叢書2及び4に集約されている。

「第二次世界大戦は不可避だったのか -軍縮・軍備管理から考える-」

【日時】 2016年5月31日(火) 18:30~20:30

【場所】 明大駿河台キャンパス グローバルフロア1階 グローバルホール

【登壇者】

司会 榎本珠良 (明治大学研究・知財戦略機構 共同研究員)

第1報告 ジュネーヴ海軍軍縮会議 (1927) 決裂の背景

倉松 中 (青山学院大学国際政治経済学部准教授)

第2報告 ジュネーヴ軍縮会議 (1932-34) の挫折過程

松永友有 (横浜国立大学国際社会科学研究院教授)

第3報告 第二次ロンドン海軍軍縮会議予備交渉 (1934) の過程

小谷賢 (日本大学危機管理学部教授)

■ 明治大学国際武器移転史研究所 第4回シンポジウム



- 本研究所主催の初の本格的な国際シンポジウムであった。
- 第2テーマ「軍縮・軍備管理破綻の構造解明」をベースとしつつも、標題のテーマによる貴重な報告が行われた。
- このシンポジウムを契機として、研究所の国際ネットワークのあり方に関して、具体的な取り組みが始まる。
- 報告者には講演原稿に加えて第2テーマに即した論文も提出してもらい、国際ワークショップと『国際武器移転史』を経て、研究叢書2にその成果を掲載することができた。

「世界の大学における軍縮研究－ヨーロッパの研究・教育機関を中心に」

【日時】 2016年11月22日（火）18:30～20:30

【場所】 明大駿河台キャンパス グローバルフロント1階 GH

【登壇者】

第1報告「ジュネーヴ高等国際・開発問題研究所スモール・アームズ・サーベエイの歴史と課題」

キース・クラウス (Keith Krause) ジュネーヴ高等国際・開発問題研究所教授

第2報告「ロンドン大学キングス・カレッジ戦争研究学部の歴史と課題」

ジョセフ・マイオロ (Joseph Maiolo) ロンドン大学キングス・カレッジ教授

■国際武器移転史研究所 第5回シンポジウム

Program

司会 田嶋 佳隆 (明治大学法学部教授)

第1報告 イギリスのプレゼンスと軍事援助
渡辺 昭一 (東北学院大学文学部教授)

第2報告 インドの兵器国産化政策と軍事援助
横井 勝彦 (明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所所長)

報告発表

明治大学国際武器移転史研究所 第5回シンポジウム
冷戦期南アジアにおける軍事援助の展開

2017年
6月27日(火)
18:30~20:30 (18:00開場)

明治大学駿河台キャンパス
リバティタワー12階 1126教室
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

【主催】明治大学国際武器移転史研究所
【後援】政治経済学・経済史学会
兵務産軍・武器移転史フォーラム
【言語】日本語のみ

【参加方法】
事前登録制です。登録締め切りの2017年6月26日(月)までに、以下の登録フォームからお申し込みください。
http://www.kaac.mej.ac.jp/nao
この期間にかからず、登録者が定員に達した場合は登録を締め切らせていただきます。いただいた個人情報は、明治大学国際武器移転史研究所のホームページの公開には使用いたしません。

【お問い合わせ先】
明治大学国際武器移転史研究所の事務局まで、メールでお問い合わせください。
E-mail: nhga@mej.ac.jp

【明治大学国際武器移転史研究所ウェブサイト】
http://www.kaac.mej.ac.jp/nao/index

本シンポジウムの開催は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成27年~平成31年)」に依頼しています。

- 第3テーマ「産官学連携・軍事偏重型産業化モデルの国際比較」の分担研究者によるインドへの軍事援助に焦点を当てた2報告。
- 渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア』での研究成果の踏まえた軍事援助に関する初めての経済史研究。
- 2報告の内容は、『国際武器移転史』に掲載され、その後に招聘した台湾、韓国、インドの研究者の論考とともに研究叢書6に集約される予定であったが、次年度に延期。

「冷戦期南アジアにおける軍事援助の展開」

【日時】2017年6月27日(火曜日) 18:30~20:30 (18:00開場)

【場所】明治大学駿河台キャンパス リバティタワー12階 1126教室

【報告者】渡辺昭一(東北学院大学文学部)「イギリスのプレゼンスと軍事援助」
横井勝彦(明治大学商学部)「インドの兵器国産化政策と軍事援助」

■国際武器移転史研究所 第6回シンポジウム



- 第4テーマ「ブリティッシュ・ワールド論の検証」を主題とした初めてのシンポジウムで、当日はイギリス帝国史の観点からの議論が中心となった。
- 「ブリティッシュ・ワールド論」というイギリスの学会での議論をいかにわが国のイギリス帝国史研究や武器移転史・技術移転史研究の中に取り込んでいくかが今後の課題である。
- ここでの議論は、その後の国際セミナー等を経て研究叢書3にまとめ上げられた。

「ブリティッシュ・ワールド研究の新視点—帝国紐帯の政治経済史—」
【日時】 2017年11月21日(火) 18:30~20:30 (18:00開場)
【場所】 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー11階 1114教室
 司会 横井勝彦 (明治大学商学部教授・国際武器移転史研所長)
【報告者】 竹内真人 (日本大学商学部)「ブリティッシュ・ワールド論とインド」
 福士 純 (岡山大学)「カナダにおける帝国特惠関税論争の再検討」

■国際武器移転史研究所 第7回シンポジウム



- 第2テーマ「軍縮・軍備管理破綻の構造解明」に即したものであるが、それ以上にこのシンポジウムは標題にあるような位置付けで、むしろその観点より海外の研究者・実務家にも報告を依頼した。
- ここでの報告に加えて、『国際武器移転史』には他の国内外の研究者の関連論文も多数掲載できた。
- 研究叢書4は、テーマ2が掲げた「歴史研究と現代政策論議との接合」という課題を、以上の経緯を経て集大成した先駆的な研究成果である。

「武器貿易条約（ATT）第4回締約国会議直前シンポジウムー世界の武器移転をめぐる理想と現実ー」

【日時】2018年8月18日

【場所】グローバルホール

【報告者】

第1報告：榎本珠良「武器移転規定の歴史とATTの課題」

第2報告：佐藤丙午「第二次世界大戦後の安全保障貿易管理レジームの歴史と課題」

第3報告：ポール・ホルト「武器貿易条約（ATT）の諸課題：報告と透明性の課題」

第4報告：オーウェン・グリーン「武器貿易条約（ATT）の諸課題：実施の課題」

第5報告：ミッツィ・アウステロ「武器貿易条約（ATT）の諸課題：アジアにおける普遍化の課題」

■国際武器移転史研究所 第8回シンポジウム



- このシンポジウムは、第3テーマ「産官学連携・軍事偏重型産業化モデルの国際比較」の出版企画との関連で開催された。
- 報告者の自国の政治情勢や報告テーマとの関係からシンポジウムの開催に関しては不安視する声もあったが、結果的には予想以上の成果が得られた。
- 報告者2名との国際連携や共同研究が本格的に始まり、当面の成果は『国際武器移転史』に掲載できたが、研究叢書6の年度内刊行は実現できなかった。

「冷戦期における台湾・韓国安全保障政策

—軍事援助と軍事的自立化をめぐって—

【日時】2018年12月18日／【場所】グローバルホール

【報告者】

第1報告：劉復國（台湾国立政治大学国際関係研究センター教授）

第2報告：ソン・キョンホ（韓国国防大学軍事戦略研究センター教授）

コメント：瀬瀬厚（明治大学研究・知財戦略機構 特任教授）

②国際ワークショップ

■明治大学国際武器移転史研究所 国際ワークショップ

「難民危機と中東・バルカン：紛争の連鎖と武器移転」

【日時】2016年7月2日（土曜日）13:00-17:45

【場所】明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 8階 308G

【登壇者】

司会 佐原徹哉（明治大学政経学部教授）

開会の辞 横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所長）

第一セッション 「武器移転と地域紛争」

第一報告 武器移転メカニズムと「イスラム国」の誕生

佐原徹哉（明治大学政経学部教授）

第二報告 非国家主体への武器移転の規制：19世紀から現在まで
榎本珠良（明治大学研究・知財戦略機構 共同研究員）

第三報告 「イスラム国」とヒジュラについて
保坂修司（日本エネルギー研究所研究理事）

第二セッション 「紛争と難民危機」

第一報告 難民移送とビザ廃止を巡る欧州連合とトルコの合意が意味する問題のすり替え
ムスタファ・トルケシ（中東工科大教授）

第二報告 集団的記憶から現実の最前線へ：ギリシャ国家と社会が直面する難民・移民問題、1980-2016
タソス・コストプロス（EFSN 紙記者）

第三報告 シリア内戦の周辺地域への影響：「イスラム国」、ヒズボラ、イスラエル軍を中心に
小副川琢（明治大学兼任講師）

総括討論

司会 森山央朗（同志社大学）

■Workshop: “Japan’s Rush to the Pacific War: Civil-Military Relations, Threat Perception, and the 1936 Withdrawal from the Washington System”

【日時】2017年1月16日（月）18:30～20:30

【場所】明治大学駿河台キャンパス リバティータワー9階 1095室

【登壇者】

司会 榎本珠良（明治大学国際武器移転史研究所）

報告者 リオネル・ファットン（Dr. Lionel Fatton）Lecturer, Webster University Geneva; Research Associate, CERI-Sciences Po Paris)

コメンテーター 植木（川勝）千可子（早稲田大学教授）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際ワークショップ

「イギリスの戦車生産と戦時経済 1937-1945年」

【日時】2017年3月8日（水）14:00開始

【場所】明治大学グローバルフロント17階 C6会議室

【登壇者】

司会 山下雄司（日本大学経済学部准教授）

報告者 Benjamin Coombs（元ケント大学助教・イギリス）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際ワークショップ

「戦間期の軍縮における科学技術の概念化—航空の技術転用と軍事的乱用、1919～1945年—」

【日時】2017年3月27日（月）15:00時開始

【場所】明治大学アカデミーコモン9階309C教室

【登壇者】

司会 竹内真人（日本大学商学部准教授）

報告者 S. Waqar H. Zaidi（ラホール経営科学大学・パキスタン）

③国際セミナー

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「ジェントルマン資本主義論の省略と回避（Elisions and Elusions of Gentlemanly Capitalism）」

【日時】2017年4月11日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】アンドリュー・ディリー（アバディーン大学・イギリス）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「第二次世界大戦におけるブリティッシュネス報道—ラジオとブリティッシュ・ワールド（Broadcasting Britishness during the Second World War: Radio and the British World）」

【日時】2017年4月13日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】サイモン・ポッター（ブリストル大学・イギリス）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「冷戦期国際航空研究の新動向—脱植民地化とジェンダーの観点から—」

【日時】2018年11月24日

【場所】明治大学グローバルフロント7階C4会議室

【報告者】

第1報告：ワカー・ザイディ（ラホール経営科学大学・パキスタン）

「アメリカ合衆国がパキスタン民間航空の発展に果たした役割」

第2報告：フィル・ティーメイヤー（カンザス州立大学・アメリカ）

「ジェット時代のフェミニズム—エミリオ・プッチ、メアリー・

ウェルズと1960年代プラニフ航空のシュワードス—」

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「係争地域における武器移転と循環メカニズムーバルカンと中東の事例を中心にー」

【日時】2019年2月6日

【場所】明治大学グローバルフロント7階C4会議室

【報告者】

第1報告：アンドレ・エデムスキ（ロシア科学アカデミー）

「ソ連・ユーゴ論争（1948-54）と1990年代初頭までのその影響」

第2報告：ダニーロ・マンディチ（ハーバード大学社会科学講師）

「欧州難民危機：強制移住の背景にある密輸・密航・組織犯罪に注目して」

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「独立前夜インド航空機産業の誕生と国際ネットワーク」

【日時】2019年6月4日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】アパラジス・ラムナス（アーメダバード大学・インド）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

Japan's Awakening: Moving Toward an Autonomous Security Policy

【日時】2019年7月5日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】リオネル・ファットン（ウェブスター大学・スイス）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「帝国＝コモンウェルスにおける経済、文化、ガバナンス、1886～1975年（Economics, Culture and Governance in the Empire-Commonwealth, 1886-1975）」

【日時】2019年11月26日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】アンドリュー・ディリー（アバディーン大学・イギリス）

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

「移民、帰化、そして『ブリティッシュ』・ワールド、c. 1900～1945年（Migration, Naturalisation and the 'British' World, c.1900-1945）」

【日時】2019年11月28日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】 レイチェル・ブライト (キール大学・イギリス)

■明治大学国際武器移転史研究所 国際セミナー

『ブリティッシュ』であることの重要性？戦間期におけるオーストラリア、ニュージーランド、帝国の文化経済 (The Importance of Being 'British'? Australia, New Zealand and the Cultural Economy of Empire in the Interwar Era)」

【日時】 2019年11月28日

【場所】 明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】 フェリシティ・バーンズ (オークランド大学・ニュージーランド)

■武器と市民社会研究会第51回会合「CCW-LAWS 政府専門家会合・ATT
第5回締約国会議合同報告会」

【日時】 2019年9月19日(木) 19:00-21:00

【会場】 拓殖大学文京キャンパス F館301教室

【登壇者】

報告者

佐藤丙午 (拓殖大学)

榎本珠良 (明治大学)

吉田真衣 (特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス)

司会・討論

杉原浩司 (武器取引反対ネットワーク [NAJAT] 代表)

【主催】 「武器と市民社会」研究会

【後援】 拓殖大学海外事情研究所 (IWS)・明治大学国際武器移転史研究所 (RIHGAT)・武器取引反対ネットワーク (NAJAT)・安全保障と先端技術プラットフォーム (PSET)・科研費基盤研究 (B)「国際安全保障環境に対する科学技術イノベーションの影響」・科研費若手研究 (B)「近年の通常兵器規制の特質と背景」

■合評会 竹内真人編『ブリティッシュ・ワールド—帝国紐帯の諸相—』(日本経済評論社、2019年)

【日時】 2019年9月21日(土) 14:00-18:00

【会場】 明治大学駿河台キャンパス・大学会館3階第1会議室

【主催】 イギリス帝国史研究会主催

【共催】 国際武器移転史研究所

④フォーラム

- ◇ 2005年に政治経済学・経済史学会の下に「兵器産業・武器移転史フォーラム」が組織され、今日までに同フォーラムの開催は68回を数え、会員数も若手研究者を中心に100名を超えるまでに成長した。
http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/Forum_AT.html
- ◇ 国際武器移転史研究所は、第47回以降のフォーラムを共催としてきた。
- ◇ フォーラムでの若手を中心とした報告には、『国際武器移転史』への投稿を積極的に勧め、若手研究者の支援に努めてきた。

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第47回会合

【日時】2015年6月20日（土）14:00-18:00

【場所】東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟12階第1共同研究室

【報告者と論題】

小野寺香月（神戸大学大学院経済学研究科）

「小野浜造船所における技術移転の方法」

武田和久（早稲田大学高等研究所）

「イエズス会とグローバル・ミリタリー・ヒストリー—旧スペイン領南米ラプラタ地域における布教活動を中心に—」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第50回会合

【日時】2016年1月30日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント17階C6会議室

【報告者と論題】

山下雄司（日本大学経済学部）「イギリスにおける標準化と互換性生産への試み：1901-1918 —Engineering Standards Committeeの活動と軍需省によるゲージ生産への監督を中心として—」

小野塚知二（東京大学経済学研究科）「戦略は兵器に従う—手段の規定性についての一つの試論—」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第51回会合

【日時】2016年4月23日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント17階C6会議室

【報告者と論題】

石橋悠人（新潟大学現代社会文化研究科）「19世紀イギリスにおける海軍と科学研究—時報技術の開発と移転を事例に一—」

篠崎正郎（防衛省・統合幕僚監部）「冷戦期のイギリス防衛政策における中東」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第52回会合

【日時】2016年6月17日(土) 14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

西尾隆志(明治大学大学院文学研究科)「日独航空技術交流(1922~1945年)
—日本軍事技術開発における「自立」と「欧米依存」の相克—

勝田俊輔(東京大学文学部・大学院人文社会系研究科)「ブリティッシュ・ワ
ールド(論)におけるアイルランドの位置づけ」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第53回会合

【日時】2016年10月15日(土) 14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

貝賀早希子(国際基督教大学平和研究所)「トランスナショナル・ムーブメント?
英米国際連盟運動の展開、1914-18」

津田博司(筑波大学大学院人文社会科学部)「オーストラリアにおけるナシ
ョナリズム研究からみた『ブリティッシュ・ワールド』」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第55回会合

【日時】2017年4月22日(土) 14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

合評会：横井勝彦編『航空機産業と航空戦力の世界的転回』日本経済評論社。

評者：山田 朗(明治大学文学部)

西川純子(獨協大学名誉教授)

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第56回会合

【日時】2017年5月5日(土) 14:00-18:00

【場所】東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟 12階第1共同研究室

【報告者と論題】

パネル「武器への道徳的な問いの諸相」

報告者と論題：

問題提起：小野塚知二(東京大学)

報告：

武井弘一(琉球大学)「日本近世の百姓の銃砲所持・利用の規範」

小野塚知二「19世紀後半~20世紀初頭軍拡期の国家・民族の「独立・自衛」と

武装・武器移転正当化論

佐原徹哉（明治大学）「超域的テロ・ネットワークにおける武装正当化論」

コメント：

竹内真人（日本大学）「19世紀末～20世紀初頭の武器=労働力交易規制論から」

榎本珠良（明治大学）「現在の非国家主体への武器移転規制の取り組みと規範論から」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第57回会合

【日時】2017年6月17日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント17階C6会議室

【報告者と論題】

下斗米秀之（敬愛大学）「アメリカ移民制限政策の成立と企業・経営者団体」

白戸伸一（明治大学）「史上初のタンク生産地における産業展開」

山下雄司（日本大学）「戦間期におけるイギリスの戦車輸出に関する研究展望」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第58回会合

【日時】2017年10月7日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント17階C6会議室

【報告者と論題】

合評会：榎本珠良編『国際政治史における軍縮と軍備管理—19世紀から現代まで—』日本経済評論社、2017年

評者：福田 毅（拓殖大学）

後藤春美（東京大学総合文化研究科）

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第60回会合

【日時】2018年1月27日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント17階C5会議室

【報告者と論題】

小風尚樹（東京大学大学院）「19世紀半ばにおけるイギリスの対清軍艦売却」

大井知範（明治大学）「第一次世界大戦前の英独建艦競争とアジア太平洋」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第61回会合

【日時】2018年4月21日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント1階多目的会議室

【報告者と論題】合評会

一ノ瀬俊也著『飛行機の戦争 1914-1945:総力戦体制への道』（講談社、2017年）

評者：鈴木 淳（東京大学）

水沢光著『軍用機の誕生：日本軍の航空戦略と技術開発』（吉川弘文館、2017年）
評者：永岑三千輝（横浜市立大学名誉教授）

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第62回会合

【日時】2018年6月9日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

合評会 渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア：1960年代を問う』
（ミネルヴァ書房、2017年）

評者：須藤 功（明治大学政治経済学部）

脇村孝平（大阪市立大学経済学部）

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第63回会合

【日時】2018年10月13日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

林 優来（東京大学大学院）「イタリア航空機の黎明 —飛行船開発からリビア戦争まで—」

佐藤 滋（東北学院大学）「1960年代における対マレーシア経済・軍事援助政策の変容 —アジア太平洋経済圏の胎動と援助をめぐる攻防—」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第65回会合

【日時】2019年2月23日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

赤津正彦（明治大学）「19世紀イギリス海軍と環境技術 —燃料および燃焼技術を中心に—」

祖父江利衛（関東学院大学非常勤講師）「両大戦間期における軍縮下の軍に関する研究への一試論 —第1次大戦後、国際社会が直面していた喫緊の課題とは—」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第66回会合

【日時】2019年6月22日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

小野塚知二（東京大学）「被害者意識に彩られたナショナリズムへの回帰

—第一次世界大戦開戦原因の謎と近年のポピュリズム—
溝辺泰雄（明治大学）「20世紀中葉のアフリカにおける核兵器廃絶運動」

■兵器産業・武器移転史フォーラム 第68回会合

【日時】2019年11月2日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17階 C6会議室

【報告者と論題】

和田龍太（東海大学）「中国をめぐる英米関係：イギリスによる航空機技術の対
中輸出を中心に、1969-1975年」

高橋裕史（帝京大学）「ローマ帝国時代におけるキリスト教と軍事の相互関係に
ついて—「non occides」から「in hoc signo vinces」へ—」

以上